横浜市立 岸谷小学校　　学校評価報告書　　（平成28～30年度）

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	「資質・能力を育成する授業デザイン」をテーマに掲げ、子どもの実態をとらえ、身に付けるべき資質・能力を育成する授業の在り方を研究し、授業力向上、学力向上を目指します。また、朝のスキルタイム、読書タイムの拡充、各学年の発達段階に応じた家庭学習の継続により、学習の習慣化と基礎的・基本的な学習事項の定着を図ります。	年間8回の校内授業研究会と2回の公開授業研究会を通し、育成すべき資質・能力を整理し、授業の在り方を検証してきたことにより、授業改善が図られ、子どもの活用する意識も向上しました。スキルタイム・読書タイムの継続により、学習の習慣化と基礎的・基本的な学習事項の定着を目指しました。	B
豊かな心	平和スピーチ発表会、人権トークを柱に、人を思いやることなど、人権について自分事として考えていける態度を育みます。また、道徳の授業を年1回以上授業参観にて公開することで、職員の意識を向上させるとともに、保護者や地域の方にも学校での取り組みをご理解いただき、連携して教育活動に取り組んでいきます。	平和スピーチ発表会、人権トークではそれぞれの学年で内容、テーマを設定することで、より子どもたちの成長段階に合わせた話し合い、取組みをすることができました。授業参観で道徳の授業を公開することにより、教科化される道徳での子どもたちに考えさせる内容や授業構成について一層理解を深めるきっかけとなりました。	B
健やかな体	・毎週金曜日の朝の時間を体力づくりタイムとして設定します。クラスごとに長縄に挑戦したり、持久走をしたりする取り組みを通して体力をつけていきます。 ・学校保健委員会では、「生活リズムを整える」をテーマにして取り組みます。そして、委員会で話し合ったことを各クラスに広め、その定着を目指していきます。	持久力の向上を目標に長縄と持久走を行い、長縄では学級で目標回数を設定したり休み時間にも練習したりと積極的に取組めました。マラソンカードにより取組の進み具合が自覚できました。学校保健委員会では「元気カード」を用いて振り返りをし、遅寝遅起きや運動不足などの健康課題を改善するためクラスごとに取り組めました。	B
児童指導	岸谷スタンダードの細部までを職員が理解し、方向性を揃えて指導していきます。そして内容を丁寧に子ども達に指導します。職員で子どもの実態を共有する時間を増やし、課題が多いところや問題が起こりそうなところについて、学校全体で改善することができるようにします。横浜プログラムを有効活用できるよう、職員の研修を行います。	児童指導部を中心に、児童の様子を月に1度確認し、情報共有していきました。指導の改善が必要な場合には、組織でその改善策を図り、実施をしました。また、課題の大きい部分については、複数で対応するようにしました。スタンダードの内容が定着するように見直しを行い、共通理解を図り指導の統一ができるようにしました。	C
特別支援教育	特別支援教育委員会を設置し、特別支援教育相談センター、通級指導教室、療育センター等他機関や学校カウンセラーと連携し、個々の特性や状況を的確にとらえ、効果的で適切な指導、支援を行える体制を整えていきます。また岸谷スタディールーム（個別学習・少人数グループ学習）を今年度より実施し、学習理解、学習習慣の定着を図ります。	特別支援教育委員会を中心とし、校内で情報を共有していく中で、関係機関とも連携が図られ、個に応じた支援、指導を組織的、継続的に行うことができました。岸谷スタディールームでは、児童の実態に応じた個別指導、グループ指導を継続したことで、学習習慣や基礎的・基本的な学習事項の定着が図られつつあります。	B
学校運営協議会	5月に第1回学校運営協議会を開催し、委員へ設置意図及びその役割を説明し、活動の方向性を確認します。また、人材を含めた地域資源をより効果的・効率的に学校運営に反映させていくための協議を行っていきます。保護者からの授業評価や学校評価アンケートについて検討し、学校関係者評価の在り方も再検討していきます。	学校運営協議会では委員の方に設置意図や役割をご理解していただき、学校行事や土曜参観などでより良い学校運営に向けたご意見を伺うことができました。保護者アンケートでは、行事や授業での子どもたちの態度や教師の指導力について振り返ったり改善点を考えたりすることができました。	B
人材育成・組織運営	5年次以下の教員でステップアップチーム、その他の教員でキャリアアップチームを組織し、授業や研修を通して学習指導・児童指導に関するスキルアップを図ります。また、ステップアップチームは悩みを相談できるミーティングの場を設け、キャリアアップチームは月1回の不祥事防止研修を担当する等、キャリアステージに応じた取り組みを行っていきます。	ステップアップチームでは、日々の児童指導や学習指導などについての悩みを共有し、話し合うことで、次の指導に生かすことができました。キャリアアップチームは不祥事防止研修や実技研修などを担当することで、自身のスキルをさらに高めるとともに、他の職員にそれを伝え、全体のスキルアップにつなげられました。	B
ブロック内相互評価後の気付き	本年度、中学校土曜授業参観を活用し、中一を対象とした小学校教員による授業を行った。中学校教員にとって、同じ対象者へのアプローチの仕方・言葉かけ等参考になることが多かった。児童生徒理解及び小中の教師間の相互理解の視点では大きな成果を得ることができた。課題として、中学校の土曜授業への参加のため、小学校教員の勤務（振替等）、事前の単元計画・授業計画等の共有の必要性が挙げられた。中三の卒業期前に実施している、母校小学校への学習支援は、9年間で育てる子ども像の一端として、高い評価ができる。		
学校関係者評価	・学力状況調査の結果が平均点を超せばよいということではなく、経年の変化が向上することを目指していくのでよい。子どもが小さなつまずきをしたときに丁寧にフォローしていくことが大事である。 ・子どもはその成長過程においていじめの場面に出会うことは多い。自他を大切に思う気持ちを育んでいく取組を継続していってほしい。 ・具体的取組を設定するにあたって、何ができるのかが明確にできたときに成果としてとらえるのか、具体的な指標が必要である。そうすることで評価がしやすくなる。		
学校経営中期取組目標振り返り	「健やかな体」では、体力づくりタイムを毎週行うことで、児童の体力を向上させようという意識が育まれてきています。「学校保健委員会」については、全児童が自分事として取り組める課題を設定し、活発に取り組んでいきます。「児童指導」では、岸谷スタンダードを実施していますが、全体化されていないので、次年度は教師の共通理解を図った上で、学校全体に浸透させていきます。「学校運営協議会」を設置し、委員の方から行事や授業を参観していただき、より良い学校運営に向けたご意見を伺うことができました。また保護者アンケートからのご意見を検討し、次年度につなげていきます。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	子どもの実態をとらえ、資質・能力を育成する授業、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践します。授業では、話す、聞く、振り返るなどの学習スキルの定着や各教科における見方・考え方の深化、統合を図ります。朝のスキル・読書タイム、各学年の発達段階に応じた家庭学習の継続により、学習の習慣化と基礎的・基本的な学習事項の定着を図ります。	年間8回の校内授業研究会と1回の公開授業研究会を通し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に取り組みました。横浜市学力・学習状況調査の経年変化では、全校の学力や学習意識の向上が見られました。さらに学力向上アクションプランも改善、修正し、基礎的・基本的な学習事項の定着が図られています。	B
豊かな心	年間指導計画を見直し、道徳教育の要として道徳の時間のより一層の充実を図ります。平和スピーチ発表会、人権週間の取組などを通し、自他を大切にする心情や態度を育みます。道徳授業を年に1回以上授業参観にて公開することで、職員の意識を向上させるとともに、保護者や地域の方にも学校での取り組みをご理解いただき、連携して教育活動に取り組んでいきます。	特別の教科として位置づけられた道徳の指導について評価の在り方などの研修をし、道徳教育の充実を図りました。また、全校で平和スピーチ発表会を行ったり、人権週間の取組について児童代表委員会で検討したりするなど、児童が主体的に取り組めるようにしました。こうした取組により、自他を尊重する意識が育まれてきています。	B
健やかな体	毎週金曜日に体力づくりタイムを設けます。長縄跳びや短縄跳び、持久走を通して瞬発力や持久力の向上を目標として取り組んでいきます。運動委員会と連携することで子ども同士でモチベーションを高めていけるようにしていきます。昨年度に引き続き、「元気カード」を使って生活リズムの振り返りをします。運動に取り組む機会を増やすことにより、体力や筋力の向上を目指します。	体力づくりタイムで縄跳びを取り入れることで休み時間にも縄跳びをして遊ぶ児童が増えました。持久走では過去の自分の記録や互いの記録を意識しながら運動に取り組むことができました。休み時間などにクラス全員で外遊びをしたり運動を取り入れた集会を実施したりするなど、全校で丈夫な体づくりのための運動に取り組めました。	B
児童指導	岸谷スタンダードを教職員が正確に理解し、児童にそれが浸透し安心して生活できるよう、きめ細かく指導を行っていきます。また、児童の様子について必要な情報を教職員が共有できる時間を定期的に設け、課題やその解決方法について組織的に検討し、改善ができるようにします。横浜プログラムを活用のための教育研修を行い、児童理解をしっかりと行うことができるようにします。	児童の様子について全職員で毎月1回情報共有し、チームとして組織的な対応を行ってきました。岸谷スタンダードについては指導の徹底を図るとともに適宜見直しを行い、実態に即した内容に改善を図りました。横浜プログラムについては職員研修を行いました。より有効な活用ができるよう今後も年間計画に位置付けていきます。	B
特別支援教育	特別支援教育委員会では、個々の特性や状況を的確に捉え、効果的で丁寧な支援が行える体制を整えます。また、岸谷スタディールーム（グループ学習・算数少人数学習）を継続して実施し、学習理解、学習習慣の定着を図ります。個別支援学級の児童が「朝の会」を交流級で過ごすなど、一般学級との交流の機会を増やし、インクルーシブ教育を進めていきます。	岸谷スタディールームにおいてグループ学習と算数少人数学習を継続したことにより個々の状況に応じた基礎的・基本的な学習事項の定着が図られました。また、個別支援学級と一般学級との交流の機会が増えたことで、障害の有無に関わらず互いに理解を深め社会で生きていくための力を育むインクルーシブ教育が進められました。	B
学校運営協議会	授業参観や運動会・岸谷ふれあいコンサートなどの行事等、年間を通して保護者から授業評価や学校評価アンケートをとって改善に努めます。また学校運営協議会委員の方にも年間行事や授業参観をしていただいた後には給食ミーティングを行い効果的・効率的に学校運営に反映させていくための協議を行います。	学校行事や授業の参観をしていただいた後に給食ミーティングを行い、委員の皆様からのご意見を学校運営に反映させていくことができました。保護者アンケートでは、子どもたちが学習に取り組む様子や、教師が魅力ある授業を行えているかどうかという視点からのご意見をいただき、授業改善につなげることができました。	B
いじめへの対応	道徳教育を中心に、児童が自己の内面をしっかりと見つめ、より多角的・多面的に物事をとらえる力を育む学習を計画的に行います。カウンセリングスキルに関する職員研修を行い、児童の悩みに寄り添えるスキルの向上に努めます。	日々の道徳教育や、人権週間に行った「人権トーク」の取組により、自分を大切にする気持ち、友達を大切にする気持ちを育て、生活の中での実践につなげていきました。気になる出来事があったときには、「児童支援ノート」に記録し、担任と各学年教諭、児童支援専任教諭が連携をはかり、早期にチーム支援を進めることができました。	B
人材育成・組織運営	5年次以下の教員でステップUPチーム、その他の教員でキャリアUPチームを組織し、授業や研修を通して学習指導・児童指導に関するスキルUPを図ります。学んだことを日々の実践へとつなげ、機能していくよう校内OJTを促進させます。また、危機管理について組織的に対応していきます。業務の前例踏襲を避け、分析と見直しを行い、改善・効率化に努めます。	ステップアップチームでは、日々の児童指導や学習指導などについての悩みをもとに、キャリアアップチームが研修を行うことで、指導の仕方を共有しながら、全体のスキルを高めることができました。また、キャリアアップチームによる不祥事防止研修を通して、危機管理についての組織的な意識改革が図れました。	B
ブロック内相互評価後の気付き	昨年度より中学校土曜授業参観時に中一を対象として小学校教員による授業を行っている。中学校教員にとって生徒への言葉かけ・板書の工夫等参考になった。児童生徒理解及び小中教師間相互理解で大きな成果を得た。今年度の授業研は、人権教育実践推進校のテーマと併せ、ユニバーサルデザインを取り入れた授業を行い協議を重ねた。9年間で育てる子ども像の一端として、小学校運動会の支援、防災訓練や地域行事への参加希望生徒の増加が見られる。また中3卒業前の母校小学校への学習支援は、高い評価をできる。土曜授業への協力のため、小学校教員の勤務振替、事前の細かい調整は課題である。		
学校関係者評価	市学力調査で活用する力が高いのは評価できる。学習が遅れがちな子どもにも笑顔で温かく指導にあたってほしい。学校経営について保護者アンケートを取り、次年度に向け改善を図ることは大変よいことだが、一部の短期的な意見に惑わされることなく、長期的に見越して活用していってほしい。子どもたちの豊かな心を育むためには、地域の伝統行事を大切にしたり、地域の行事で金管バンドが発表したり一人ひとりのよさを引き出していくことも大切だと思われる。今後も学校の特色を出しながら、地域や家庭と連携して個に応じた温かい支援を多くの大人がしていくことが大切である。		
学校経営中期取組目標振り返り	「健やかな体」では、市の体力テストの結果を受けて、瞬発力や持久力の向上を図って、体力づくりタイムを計画してきたが、次年度は子どもたち自身が体力向上の意識をもてるような活動を行いたい。保護者アンケートから読み取れるのは、行事に対する保護者の関心が高まっているので、保護者の参観マナーの向上に向けた取組や、よりよい参観方法については検討したい。「特別支援教育」については、東部療育センターのコンサルテーションを活用し、子どもの個に応じた指導や支援を行うことができたので今後もよりよい支援を目指したい。		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	子どもが自ら問題を見いだし、互いにかかわり合いながら問題の解決に取り組むなど、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、問題発見・解決を踏まえた学び方など、学力向上アクションプランの取組として全学年で実践できるようにしていきます。朝のスキル・読書タイム、各学年の発達段階に応じた家庭学習を実施し、学習の習慣化、基礎的・基本的な学習事項の定着を図ります。	年9回の校内授業研究会と1回の公開授業研究会を通し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組みました。児童から次の課題が生まれるように、振り返りを大切に授業を進めました。スキル・読書タイムの内容と質を充実して、基本的な学習事項の定着に努めました。	A
豊かな心	道徳指導の目標と年間指導計画の見直しを行います。新しく道徳の教科書を使用するため、教科書で扱われている資料の内容・価値について教材研究を深め、適切に指導ができるようにします。平和スピーチ発表会、人権月間の取組を工夫し、児童の自他を大切にする心情や態度を養うよう努めます。授業参観で年1回以上の公開をし、保護者との連携強化も図ります。	道徳授業の評価について研修し、道徳教育の充実を図りました。また、平和スピーチ発表会や人権トーク、横浜子ども会議などの取組について、代表委員会で協議し、児童が主体的に取り組みました。人権月間では、各学級でリフレーミングの活動を行いました。こうした取組により、相互理解を深める意識が育まれてきています。	B
健やかな体	体力づくりタイムでは引き続き、縄跳び・持久走に取り組みます。また、記録を意識して取り組めるよう記録測定会を設定したり、カードを用意したりしながら子どもたちの体力づくりへの意識を高めます。学校保健委員会も引き続き、運動を通して丈夫な体づくりを目指します。体力づくりタイムの準備運動に「子どもロコモ予防体操」を取り入れ、運動機能の低下を予防します。	体力づくりタイムでは縄跳びと持久走を行いました。休み時間にも長縄の練習を続けている学級が多く見られ、持久走では時間内を最後まで走り切ることができる児童が増えました。全校集会や学級活動などに外遊びを積極的に取り入れ、運動に親しむ機会を増やしました。今後も全身を使った外遊びができる環境づくりを進めます。	B
児童指導	「学習のルールが守られているか」の部分の保護者アンケートの結果が7ポイント程ずつ低下を続けているため、教職員の「岸谷スタンダード」の理解と指導の取組への徹底を一層図るようにします。月に1度以上、学年を超えた児童理解の会合を設け、情報共有や児童指導に関する組織的な対応を速やかに行えるようにします。	「岸谷スタンダード」を教職員で確認し合いながら、細かい部分で検討を重ね、付け足しをしたり、指導方法を共有化するようにしました。また気になる児童について、教職員で情報共有をし、同じスタンスで児童指導を行うようにし、重大な案件は複数で迅速に対応しました。必要に応じ学年指導や全体指導を行いました。	B
特別支援教育	特別な教育支援を必要とする子どもに対し、学習だけでなく登校支援や友達との関わり方の支援ができるよう、随時、校内委員会を開催し子どもの見とりを丁寧に行います。また、岸谷スタディールーム（グループ学習・算数少人数学習）を継続して実施します。算数少人数学習は対象を3～6年生に拡大し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ります。	東部療育センターのコンサルテーションや県立鶴見養護学校の巡回教育相談を実施し、特別な支援を必要とする児童への対応について助言を得て職員間で共有しました。学校カウンセラーと連携して登校支援や学習支援を進めました。算数では3年生以上で習熟度別指導を取り入れ、より実態に合った指導を心掛けました。	A
学校運営協議会	学校運営協議会の委員の方に、年間行事や授業参観をしていただいた後に、給食ミーティングを行い、効果的・効率的に学校運営に反映していくための協議を行っていきます。また、授業参観や運動会・岸谷ふれあいコンサート・餅つき等の学校行事等、1年間を通して保護者から授業評価や学校評価アンケートをとり、よりよい授業・参観形態・学校運営に向け改善に努めます。	協議会委員より、行事や授業を参観後に給食ミーティングの場でご意見を伺い、学校運営に反映させることができました。保護者のアンケートでは、行事への関心の深まりを感じ取ることができ、細かいところまでご意見をいただきました。これらをより良い形態や運営に役立てていきます。	B
いじめへの対応	いじめの起きにくい学級風土をつくるため、子どもの居場所づくり、絆づくりをさらに進めます。また、子どもの健全な発達を促し、問題を回避できる子どもを育てるために、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を取り入れた授業実践を計画的に位置づけ、親和的な集団づくりを進めます。個性の尊重、相互理解を大切にした一人ひとりが大切にされる魅力ある授業を展開します。	いじめ防止委員会の定期開催、いじめ解決一斉キャンペーンの取組、YPアセスメントによる学級風土分析、長期休業日前の児童振り返りシートを基にした保護者との個人面談など、いじめの早期発見、早期解決の取組を進めました。道徳の授業、人権月間の取組も併せ、学校全体でいじめを解消していく指導体制を整えました。	B
人材育成・組織運営	5年次以下の教員でステップUPチーム、その他でキャリアUPチームを組織し、授業や研修を通して学習指導・児童指導に関するスキルUPを図ります。また、日々の実践へとつなげ、機能していくよう校内OJTを促進させ、危機管理について組織的に対応していけるように、キャリアアップチームによる不祥事防止研修をより一層強化させ、お互いに相談できる環境づくりを目指します。	ステップアップチームの授業実践をもとに、具体的な指導の仕方を共有し、さらなる指導力向上を図りました。働き方改革を通して、普段の業務のスリム化を行い、授業の準備等に多く時間を使うことができるようにしました。また、キャリアアップチームの不祥事防止研修を毎月実施し、危機管理能力の向上を図りました。	A
ブロック内相互評価後の気付き	児童生徒交流日に中学校教員による6年生児童への授業体験を行い、中1ギャップの解消に努めた。中学校ブロック授業研究会では、道徳の授業を通してブロックで育てたい資質・能力等について協議し、共有を図った。中学校や小学校における学習課題を明確にし、改善に向けてカリキュラム・マネジメントを行い、市学力調査の結果から、各校の学力向上が見られた。部活動体験や文化スポーツ交流事業、中学生による職場体験学習、授業支援活動、小学校行事への中学生ボランティアなども継続的に実践し、9年間で育てる子ども像の実現に向けた取組の充実が図られている。		
学校関係者評価	幼稚園や保育園との交流は、園児達が安心して小学校に入学するためにも有意義な活動であるため、これからも継続してほしい。市学力調査の結果から、学力が向上したことは評価できる。今後は学習意識も高めていくことにより、学力がさらに向上するのではないか。特別な支援を必要とする児童に対し、外部の力もうまく取り入れていきながら、引き続き教職員で連携して丁寧に対応を進めてほしい。具体的な手立てを考え、3年間着実に目標に向けて取り組んできたことは素晴らしい。今後も規模の小さい学校の良さを生かした取り組みに期待している。		
学校経営中期取組目標振り返り	「確かな学力」では、教師の授業力向上を図るとともに、授業改善に励み、子どもたちの発言の増加や学力の定着につなげることができた。次年度も日々の授業に加え週3回のスキル読書タイムの時間を大切にし、基礎学力の底上げや学習習慣の定着を目指したい。「特別支援教育」では、東部療育センターと連携しコンサルテーションや県立鶴見養護学校の巡回教育相談を実施し、外部機関と連携しながら、具体的な支援を進めることができた。今後も継続して行っていきたい。次年度からの3年間の中期学校経営方針も、これまでの取組を継続する形で進めていきたい。		